

【A年】

聖霊降臨後第十主日

特定十四

永遠にいます全能の神よ、わたしたちに信仰と望みと愛とを増し加え、またあなたが約束してくださるものを得るためにあなたが命じられることを愛させてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はヨナ書第二章二節から」

2 ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、
3 言った。
苦難の中で、わたしが叫ぶと

10 主は答えてくださった。
9 陰府の底から、助けを求めると
わたしの声を聞いてくださった。
8 あなたは、わたしを深い海に投げ込まれた。
潮の流れがわたしを巻き込み
7 波また波がわたしの upper を越えて行く。
わたしは思った
6 あなたの御前から追放されたのだと。
生きて再び聖なる神殿を見ることがあるかと。
5 大水がわたしを襲って喉に達する。
深淵に呑み込まれ、水草が頭に絡みつく。
わたしは山々の基まで、地の底まで沈み
4 地はわたしの upper に永久に扉を閉ざす。
しかし、わが神、主よ
あなたは命を
3 滅びの穴から引き上げてくださった。
息絶えようとするとき
2 わたしは主の御名を唱えた。
わたしの祈りがあなたに届き
1 聖なる神殿に達した。
偽りの神々に従う者たちが
忠節を捨て去ろうとも
わたしは感謝の声をあげ
いけにえをささげて、誓ったことを果たそう。
救いは、主にこそある。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第二九編

1 神の子らよ、主をほめよ＝ 栄えと力は主のもの
 2 神の名をほめたたえよ＝ 聖なる装いをもって主を拝
 め
 3 主の声は水の上に＝ 主は大水の上に雷鳴をとどろかせ
 る
 4 主の声には力があり＝ その響きには威厳がある
 5 主の声は杉の木を撃ち＝ 主はレバノンの杉を引き裂く
 6 主の声はレバノンの子牛のように＝ シリオンを野牛の
 ように躡らせる
 7 主の声は稲妻を放ち＝ 荒れ野を震わせ、カデシの荒れ
 の野をおびえさせる
 8 主の声はかしの木をねじり倒し、森の木々を裸にする
 ＝ すべてのものは神の住まいでその栄光をたたえる
 9 主は大水の上に座り＝ 主はとこしえに王座に着かれる
 10 主はその民に力を与え＝ 平和をもって祝福される

使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第九章一節から」

1 わたしはキリストに結ばれた者として真実を語り、偽りは言わない。わたしの良心も聖霊によって証していることですが、2 わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります。3 わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいと思っています。4 彼らはイスラエルの民です。神の子としての身分、栄光、契約、律法、礼拝、約束は彼らのものです。5 先祖たちも彼らのものであり、肉によればキリストも彼らから出られたのです。キリストは、万物の上におられる、永遠にほめたたえられる神、アーメン。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第十四章二二節以下に記された主イエス・キリストの福音。」

主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

22 それから先に行かせ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。23 群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。24 ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。25 夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。26 弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。27 イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」28 すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」29 イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。30 しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。31 イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑っ

たのか」と言われた。32 そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。33 舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言っておびえを拝んだ。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」